



羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために



COMPASS

第 126 号 2018.1.20(土)発行

関西外国語大学
教職教育センター



Read, Read, Read

College of Foreign Studies 外国語学部

Assoc. Prof. J.S. Shinall

Many students ask about the best way to improve their English. They work their way through textbooks, practice books, tests, hours of memorization with flashcards, and are frustrated about their progress. These things can all help with improving specific pieces of your English understanding, but in order to really improve overall the best tool is reading. In today's world you don't have to rely on just novels, newspapers, or magazines. You have access on your phone to writing on any topic imaginable. You can still access novels, newspaper articles, and magazine articles, but you can also read a blog about someone's fishing trip, or how they are planning their wardrobe.

It can be difficult to find a book about a topic you are interested in. It can be impossible to find a newspaper article about the same topic. No matter what you are interested in, there is probably a blog about it. People write blogs about animals, travel, indoor design, outdoor adventures, and make them available to the world for free. Companies have writers that talk about their field and their products to help customers choose the best products for their needs. Other

sites write reviews of those products to explain how to best use them.

For example, you love photography, but you haven't really bought a camera before. You might go to a company site to see what cameras and lenses are available. After looking around for a while, a particular camera catches your eye, but you want to know how other people are using it. So you find a review site which has an article about the camera with pictures of the camera in use. You find out that the kinds of things you want to take pictures of don't suit that camera very well, but the users on the site recommend a different, similar camera. Not only have you learned more about your new hobby, you have encountered vocabulary common to that hobby. You have read sentences with grammar structures that will be useful when you read another article. Now, that is not saying that this kind of reading will be easy when you start. But it does mean that you care enough about the topic to try very hard to understand the difficult parts. The best part is when you go to read another article, you will start to recognize the same vocabulary words and sentence structures and it won't seem quite so difficult.

When textbooks are written, the authors try to find topics that will interest the largest number of students. They carefully choose vocabulary and grammar so that students will not have too much problem reading the material. If you have a student, or are a student, who has a strong interest in a topic you can find something on the internet about that topic and adjust it a little bit so you can share it with your class. Make sure you include the information about the original author to give them proper credit.

～羅針盤 126号 目次～

☆学生人材バンク活動報告☆	…3～5頁
編集後記	…5頁
シリーズ25「心の窓を少し開いて！」	…6頁

——☆学生人材バンク活動報告☆——

1、『小学校いきいきプログラム』

1年間続けてきたこのプログラムもいよいよ終わりです。このプログラムの魅力は、

- ①児童の成長を長期的に見ることが出来る
 - ②学生自身のアイデアを実際に形にすることが出来る
 - ③学年を越えて意見交換ができ、自分にはない教育的視点に気付くことが出来る
- など、たくさんあります。活動している学生は、苦勞した分だけ、良い跳ね返りがあると感じているのではないのでしょうか。

英語キャリア学部 英語キャリア学科 小学校教員コース 1年生 宮本 はるかさん

私がいきいき活動に参加したのは9月で、残り1回となり、約半年くらい続けていることとなります。初めは、将来のためにボランティアをしておくことは必要である、といった理由で忙しいのを覚悟をして入ったつもりでしたが、思っていた何倍もやることもあり、授業、バイト、交友関係などと両立するのは、とても大変でした。

最初のころは、指導案も作ったことないし、児童の前で喋ったこともなく、うまくいかないことばかりで、少し落ち込むこともありました。ですが、児童の笑顔や、メンバーの人の自分には無い良いところをみて、落ち込んでいる暇は無い！と思い、もっと頑張ろうと思うことができ、約半年続けることができました。

いきいき活動に参加したおかげで、次にすべき事がはっきりとしました。2月でいきいき活動が終わってしまっても、自分がすべきことを、頑張りたいと思います。

1、『学生人材バンク交流会』

12月12日(火)と20日(水)の12:30-14:00に、6105教室にて学生人材バンク交流会を行いました。平成29年度の学生人材バンクの活動について紹介し、また、実際にプログラムに参加した学生が、活動報告を行いました。交流会の参加人数は多くはありませんでしたが、活動を振り返りながら話す経験者の学生からは、「良かった!」、「後輩にオススメ!」との声が多く上がりました。

以下に、事前に記入してもらったアンケートを掲載します。参考にしてください。

☆……参加して良かった点 ◎……一言で表すと?

《小学校いきいきプログラム》

- ☆児童の実態がわかる、子どもとふれ合える
- ☆小学生に合った英語活動や効果的なアプローチを考えることが出来る
- ☆前に立って指導することの難しさを知れる
- ☆自分の実力がわかる、自分の力を高める機会になった
- ☆自分のやりたい活動をする機会がある
- ☆現場で指導するときに役立つ
- ☆仲間ができる
- ☆小学校の先生方からの的確なアドバイスがもらえる
- ◎しんどいけど、それ以上の楽しみがある
- ◎充実
- ◎成長
- ◎学び合い

《四條畷高等学校「国際交流キャンプ」》

- ☆生徒の意見を英語で引き出すことの難しさを実感できた
- ☆活動内容が決まっている中でどれだけオリジナリティが出せるか考えられた
- ◎どれだけ盛り上げられるかが腕の見せどころ

《交野高等学校「English One Day Camp」》

- ☆高校生に英語を教えることが出来る
- ☆留学生とのつながりができる
- ☆教職のタテとヨコのつながりができる
- ☆現職の先生方と話ができる
- ☆留学生と高校生をつなぐ役割ができた
- ☆ほとんど自分たちで活動内容を決められた
- ◎一度に多くの経験ができる
- ◎準備が大切

《子ども大学探検隊・中高生を対象とした事業(フォトロゲイニング、GS・CA体験)》

- ☆自分の付加価値になる
- ☆小・中学生の実際の姿が見れる
- ☆仲間ができる
- ☆現場に出たときに役に立つ
- ☆小・中学生の楽しそうな顔が見れる
- ☆上に立つことのしんどさを学んだ
- ☆児童・生徒の興味・関心がわかった
- ◎試行錯誤
- ◎しんどい(笑)でも楽しい!

《海外教職インターンシップ(バンクーバー)》

- ☆自分の英語力の低さに気付いた
- ☆世界は広い
- ☆各国に住む人と友達になれる、様々な国の留学生と勉強・交流できた
- ☆社会経験が積めた
- ☆人脈が広がった
- ☆少し自立できた気がする
- ◎最高
- ◎たくさんの出会いとふれ合いが詰まっています

————★今後の学生人材バンク活動予定★————

教職教育センター前掲示板や外大メールも確認してください。

- ・小学校いきいきプログラム:2月10日(土)枚方市立山田小学校
2月17日(土)枚方市立平野小学校

————編集後記————

新しい年、2018年。みなさんはどのような思いを抱いているのでしょうか。抱負はありますか。そもそも抱負とは、何でしょうか。抱負；心中に抱き持っている計画や決意(広辞苑)だそうです。自分の中で強く持っている意思ややりとげたいという思いを表しているのです、本来は誰にも言わなくてもいいことかもしれません。寡黙派には容易かもしれませんが、饒舌派にはハードルが高そうです。渋沢栄一という方が、こんな言葉を残しています。

「不言実行と共に、また有言実行も大いによろしい」。

秘めた思いを胸に黙々と取り組むもよし、大声大会で100dBを越える声量で公言するもよし。2018年、みなさんの抱負は何でしょうか。

シリーズ②⑤ 「心の窓を少し開いて！」

短期大学部 明石一朗

【何気ない些細な「兆し」】

児童生徒指導に関しては「教科書」がない。なので、日々の「子どもの様子」をきめ細やかに把握することが重要になる。

たとえば、

- ①教室の窓ガラスがよく割れる。
- ②壁や机、棚に落書きがある。
- ③トイレの便器にトイレットペーパーが捨てられている。
- ④トイレのスリッパが揃えられていない。
- ⑤掃除の直後なのに教室内や廊下にゴミが散乱している。
- ⑥名札や服、髪の毛などに乱れがある。
- ⑦すすんであいさつをしない。
- ⑧チャイムが鳴っても教室に入るのが遅く、すぐに授業が始まらない。
- ⑨授業中、しょっちゅうおしゃべりをする子どもが複数いる。
- ⑩子ども同士のトラブルがおさまらず、担任の指示が入りにくい。
- ⑪持ってきてはいけない物を学校に持ち込んでいる。(お菓子類、携帯電話等)
- ⑫給食・掃除当番や係り活動・クラブなどをさぼる。
- ⑬友だちの家に泊まり歩く。

これらの対策として「王道」はない。ただ大切なことは、日々の些細な「何気ない小さな兆し」に気付き、気になったら自分一人で抱え込まずに学年や担当外や生活指導担当の先生や管理職に相談することである。

子どもには愛情を持ってしっかり寄り添う。そして、「ダメなことはだめ」と毅然と、どの教職員も「同じ気持ちで」指導に当たることが大切である。(説得と納得。頭ごなしにしかりつけることはいけない)

また、見て見ぬふりをしたり、「これぐらいのことは、まあいいか」と見逃しては「次の大きな問題」を発生させるだけである。いったん学校・学級が崩れると早い。

また、気になる子どもの言動や様子に変化があった時は、速やかに家庭と連絡を取って保護者と話し合うことである。家庭訪問も欠かしてはいけない。保護者との信頼関係を築けば学校・学級指導は子どもに染みこむ。ピンチは信頼獲得のチャンスである。これが児童生徒指導の「王道」である。